

研究の視点からのモニタリング

- (1) 「普及啓発及び教育」 木原正博委員
- (2) 「検査相談体制の充実」 今井光信委員

施策評価のための提案－住民の啓発レベルのモニタリングの例

平成 19 年 9 月 9 日

京都大学大学院医学研究科 木原正博

1. 目的

HIV/STD 関連の知識・意識や検査情報などをポピュレーションレベルで経年的に測定し、強化すべきポイントを明確とし、目標の明確なエイズ啓発施策の発展に資する。

2. 対象集団

① 在宅住民調査：

対象サンプル：住宅地図によってランダムサンプリングした全都道府県の 20000 人
回収数 15018 人（男性 3068 人、女性 11944 人）、回収率 75%
40-50 歳代が 7-8 割を占める。

② 自動車教習所受講生調査（3 月末実施）：

全国 965 校中、某社と契約のある 310 校から 101 箇所を実施（希望ベース）。
回収数 15949 人（男性 7980 人、女性 7582 人）
10-20 代が 8 割を占める。国民の 90%が運転免許をとる現在、ランダムサンプルに近い。

3. 調査項目

A. エイズや性感染症の流行状況について（正しい、正しくない、わからない）

1. 最近、中国ではエイズウイルスに感染する人が増えている
2. 最近、台湾では大きなエイズ流行が起きた
3. 最近、日本ではエイズウイルスに感染する人が増えている
4. 最近、日本では性感染症（性病）に感染する人が、10 年前より大きく増えた
5. 最近、日本では 10 代から 20 代前半の女性で、妊娠中絶する人が 10 年前より大きく増えた
6. 最近、あなたのお住まいの都道府県では、エイズウイルスに感染する人が増えている
7. 最近、あなたのお住まいの都道府県では、性感染症（性病）に感染する人が、10 年前より大きく増えた
8. 最近、あなたのお住まいの都道府県では、10 代から 20 代前半の女性で、妊娠中絶する人が 10 年前より大きく増えた

B. エイズの治療や検査について（正しい、正しくない、わからない）

9. 治療が進歩したので、早く治療を受ければ、エイズウイルスに感染しても、普通に近い生活ができるようになった
10. エイズウイルスの中には、一部の薬がきかないものが出てきている
11. エイズ検査では、感染してから数日たてば、感染しているかどうか分かる
12. 保健所（保健センター）では、名前を言わずに無料でエイズ検査ができる
13. 自分の住んでいる都道府県には夜間もしくは休日にエイズ検査を受けられる公的な検査所がある
14. 自分の住んでいる地域以外の保健所でもエイズ検査を受けることができる
15. 病院や医院では、自費であれば、実名でなくてもエイズ検査を受けることができる
16. エイズ検査でエイズにかかっていることがわかった場合、名前や住所が国に報告されることにな

っている

C. エイズや性感染症の感染について（正しい、正しくない、わからない）

17. エイズウイルスに感染した人が使った食器を使うと自分も感染する可能性がある
18. エイズウイルスに感染しても、10年近くは自覚症状がない
19. エイズウイルスに感染しやすさは、男性と女性で同じである
20. クラミジアという性感染症（性病）にかかると、自覚症状が出ることが多い
21. 性感染症（性病）は、口から性器に感染することがある
22. 性感染症（性病）は、性器から口に感染することがある
23. 性感染症（性病）にかかっていると、エイズウイルスに何倍もかかりやすくなる
24. 性感染症（性病）を治療しないと、妊娠できなくなることがある
25. 性感染症（性病）にかかっていると子宮ガンにかかりやすくなる

D. エイズや性感染症（性病）に対するあなたご自身の危険について（5段階スケール）

26. 現在の自分が、性感染症（性病）にかかる可能性はどれくらいあると思いますか
27. 現在の自分が、性行為によってエイズウイルスに感染する可能性はどれくらいあると思いますか

E. 性生活について

28. あなたは性交渉の経験がありますか（はい、いいえ）
29. 最初の性交渉は何歳のときでしたか
30. これまでの性交渉の相手は何人ですか
31. 性交渉のときによくコンドームを使用しますか（はい、いいえ）

F. エイズ検査について

32. テレビで「うしくん」が出てくるエイズ検査コマーシャルを見たことがありますか
33. これまで、妊娠や手術の関係以外で、エイズ検査を受けたことがありますか
34. 過去1年間に、妊娠や手術の関係以外で、エイズ検査を受けたことがありますか

4. 調査結果（添付表：Q1-25までの集計）

- ・都道府県によって、啓発レベルが異なる。
- ・若者〔自動車教習所受講生〕と中高年（在宅住民）では知識レベルが異なる。
- ・地元情報が不足している。
- ・夜間検査情報が普及していない。
- ・STD 予防知識が不足している。
- ・合格水準（70%）を越す項目は5項目しかない。
- ・重点都道府県も非重点地域と差がなく、努力が求められる。

5. 評価指標についてのオプション

- ・重点地域だけで行う（表中黒枠）。
- ・各項目の%を比較する。
- ・スコア化（重み付けをする）して平均値を計算する。
- ・順位付けをする。
- ・定期的（3-5年）に地域、項目、重み付けを再設定する。
- ・継続的にかつ評価に十分なサンプル数を確保できるだけの定常予算を確保する。



HIV検査体制の構築に関する研究班

The Study Group on the Development of HIV Testing Systems

<http://www.hivkensa.com>

主任研究者 今井 光信 (神奈川県衛生研究所)

保健所等における HIV即日検査のガイドライン

第2版 (平成17年3月)

利用される皆様へ

本ガイドラインは、厚生労働科学研究費補助金による“HIV検査体制の構築に関する研究”班のガイドライン作成委員会が、平成16年版のガイドラインの説明・相談部分の充実を計り、より実用的なガイドラインとなるよう平成17年3月に改訂した第2版です。

今後も増加すると思われる即日検査実施機関の意見を反映させ、随時改訂版を作成し公表する予定です。

10. 評価と活用

■ HIV 即日検査・相談事業評価の基本的考え方

本事業は、即日検査という利便性の高い新たな方法を導入することで、今までHIV検査を受けにくかった潜在的な希望者にも検査・相談の機会を提供し、エイズ対策に寄与しようとするものである。そこで、新しい検査・相談の質を確保するとともに、導入した検査相談がどの程度効果があったのか、導入前に想定した目標に一致しているのか、効率的に提供されているかを点検し、改善していくことが重要となる。

このために必要となる基礎的な統計数値は、常時作成する業務の記録に組み込んでおくことと継続的に把握でき、また容易に点検ができる。例として、検査記録、相談記録の他に、受検者の検査前の説明・相談の際に得たアンケート結果を利用することができる。基本的項目を表3に、質問票の例を47ページ（資料3様式6）の「検査前の質問票の例」に示した。実際に用いる質問票は、利用者や地域の状況に合わせて項目を検討し、保健所等の実施機関が作成する。

受検者への質問票には、個人情報保護の観点から、①検査前後のアンケート結果は事業改善のために集計・分析し用いる場合があること、②回答したくない場合は回答しなくてもよいこと、③個人が特定される形では用いられないこと、を示した上で必要に応じて説明を補足し協力への同意を求める。

表3

HIV即日検査・相談事業における評価	
評価の項目	具体的評価事項
(1) 検査結果	迅速検査陽性数及び陽性率 確認検査陽性数及び陽性率 偽陽性数および偽陽性率
(2) 利用状況	受検者数および受検者の性、年代、居住地など受検者状況 コンドーム使用などの予防状況等
(3) 受検者の満足度	説明、情報提供、相談への満足度 プライバシー保護への満足度等
(4) 説明相談の効果	知識正答率、感染予防行動調査 要確認検査の受検者の再来率 陽性者の受診率と継続相談率、 精神科等の紹介と受診率等

※偽陽性・偽陽性率：33ページ参照

■ 検査結果

検査は目視による判定であるため、検査技術に加え判定についても精度の保証が求められる。このため、技術的な正確さの精度管理に加え検査実績による検査精度の点検も重要である。検査件数および、迅速検査の陽性数と陽性率、確認検査の陽性数と陽性率を把握し、これら検査結果の数値からも検査精度の妥当性を評価することが重要である。

現在使用されている迅速検査キットの偽陽性率はおよそ1%であり、これを大きく上回る（2%以上の）場合は、検査試薬のロットに問題があるか検査技術や目視の判定に問題がある可能性があるため検討が必要である。確認検査陽性数と陽性率は受検者の中にどれだけHIV感染者が存在するか

により大きく異なる。

(保健所等のHIV検査(確認検査)での平均陽性率はおよそ0.3%である。33ページ参照)

■ 利用状況

HIV即日検査を導入することによって利用者が増加するケースが多く、利用者増は事業評価の重要な数値でもあるが、さらには導入に当たって想定している利用者と実際の受検者がどの程度一致しているかについても、受検者へのアンケート結果を定期的に調査し、その結果を検査体制や広報の方法の改善に活かすことが望まれる。

現在の日本での報告感染者の過半数は同性間の性的接触による感染であり、若年者での報告も増加しているが、かなりの地域差がみられる。それぞれの地域における特性を考慮した上で、受検者の来所理由、年齢や居住地域に関する情報、事業に関する情報の入手先等のアンケート項目を定期的に集計・検討し、その結果を、準備資料や担当者の予備知識、広報の方法にも反映させることで、その後の事業を改善することができる。

さらに、エイズや性感染症対策の一環としては、エイズや性感染症への理解の浸透度を知るための目安としてもアンケート結果を役立てることが可能である。

■ 利用者の満足度

説明終了後にアンケート調査を行い、説明の理解度、相談のしやすさ、プライバシーの守秘等に関する受検者の満足度を尋ね、説明相談や待合方法などの改善にその結果を活かす。アンケートの回収率を上げるため、アンケート回収箱の設置場所を工夫するとともに、落ち着いてアンケートを記入できる場所を設けることが望ましい。

■ 事業の効果

自発的HIV検査・相談事業の主な目的は、感染の早期確認による早期受診、HIV感染予防のための行動変容への働きかけであり、広い意味では検査・相談事業を通じて受検者と国民にエイズそのものへの理解を広く促すことである。

HIV検査・相談事業の効果の一環として、陽性者が医療を早期に受診出来たかどうかを把握することは重要である。また、感染がわかってもすぐには受診できない陽性者については、相談の継続と、それら相談継続者数の把握が重要である。さらに、精神医療など各種医療機関等への紹介数と実際の利用実績も把握しておく。これらの事業実績を記録するとともに、その内容を総合的に検討して紹介体制や準備資料の改善に活かす。

予防への働きかけの効果は、受検者の予防行動変容の程度で評価されるが、日常的なアンケート調査でこれを評価するには

限界があるので、目的を明確にした調査・研究で補うことが望ましい。通常行うアンケート調査の予防行動に関するデータを用いて、2回目より複数回受検者で改善しているかどうかを調べることができる。また、検査・相談の前後の質問票に同一項目を入れて知識の変化を評価することができる。

検査・相談やエイズの理解促進への効果

は、エイズの医療や社会支援など一般知識の増加、受検経験者から紹介された受検者数などで計れる。また、広く県民、市民を対象としたアンケート調査の機会があれば、検査相談の利用経験、事業の周知度やエイズの一般的知識・意識を調査項目に加え、事業効果を調査することもできる。

表4

HIV検査・相談事業評価項目の概要		
	項目	意義・細項目等
受検者特性評価 (検査説明相談前調査)	性別 年代 今回の受検理由・時期 過去1年間コンドーム使用頻度 検査回数・場所 相談相手の有無 検査・相談サービス情報の入手源	地域特性 地域特性 心配する感染経路 感染予防習慣 受検行動 陽性時の支援者 広報など施策との照合
HIV即日検査・相談サービスの質評価 (検査説明相談後調査)	申し込み受付に対して 検査相談サービス・態度に対して プライバシー保護について 有用知識・手段の獲得 検査相談情報入手源・媒体 自発的検査・相談のパートナーへの普及 陽性者に対する医療機関等の紹介は適切か 感想・要望・期待	受検者の満足度 受検者の満足度 受検者の満足度 説明・資料の分かりやすさ 広報など施策との照合 自発的検査・相談普及の可能性 サービスの質 自由意見
HIV即日検査・相談の効果評価	受検者数 HIVエイズや検査・相談の知識と意識 心配する感染経路HIV感染予防行動 陽性者の医療機関受診	受検者数の増加 知識・意識の改善 感染予防行動への効果 早期受診効果